

1. 研究課題名：アジア農村地域における伝統的生物生産方式を生かした気候・生態系変動に対するレジリエンス強化戦略の構築

2. 研究代表者氏名及び所属：

武内 和彦

(東京大学サステナビリティ学連携研究機構 (IR3S))



3. 研究実施期間：平成 23～25 年度

4. 研究の趣旨・概要

気候・生態系変動の影響に適応しながら農業の生産性を向上させる持続可能な農業生産（生物生産）は、気候変動適応策と生物多様性の保全策にとっての重要課題である。

本研究では、アジアの農業に対する気候・生態系変動と、社会経済の影響・脆弱性を、計量・統計モデルや農村調査等を通じて定量的・定性的に評価し、商業的大規模生産方式と伝統的生産方式の双方のメリットを有機的に活用することで、社会のレジリエンス（回復力）を強化する戦略の案を提示し、アジア農村地域の持続可能な発展に寄与することを目的とする。

本研究の成果は、気候変動枠組条約第 16 回締約国会議（COP16）で合意された適応策の枠組みと REDD+、IPCC 第 5 次評価報告書等の気候変動政策に加え、生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）で採択された愛知目標、SATOYAMA イニシティブ、IPBES 等の生物多様性政策への貢献が期待される。

5. 研究項目及び実施体制

①生物生産システムの気候・生態系変動への適応に関する研究（東京大学）

②伝統的知識・技術を生かしたレジリエンス強化策に関する研究（国際連合大学）

③生物多様性保全と調和した生物生産システムに関する研究（総合地球環境学研究所）

## 6. 研究のイメージ

